

回顧録

Reminiscences



ひるま矯正歯科 院長・書間登喜男

ひるま矯正歯科は2008年で開業30年。この節目の年にあたり、開業から現在に至るまでの歩みを「回顧録レミニセンス」と題し、3回にわたって連載することになりました。10年一昔といいますが、30年の歳月を思い返せば幾多の喜びや労苦そして紆余曲折がありました。この連載では、開業当初の様子からバブル経済に翻弄された時代を経て今日に至るまでを、思い出すままに書き綴ることにいたします。読み通していただければ幸いです。

ひるま矯正歯科、開業

昭和53年(1978年)7月21日、今の診療室がある当ビル5階に「ひるま矯正歯科」はオープンしました。当年34歳、スタッフは歯科衛生士である妻と二人だけでの新規開業でした。それまでの9年間は、大学院を修了したあと日本歯科大学の矯正学教室で医局員として過ごしていましたが、大学に残って研究者の道を行くか、それとも開業して臨床医の道を行くか一年ほど迷った末の結論が

開業でした。主任教授から次年度に助教昇進の内示を受けながら、それを断って開業を選択したこともあって、大学を退職した後、開業に向けた準備が本格化するに連れて不安が募り、眠れない日が続いたのを昨日のように覚えていきます。

アメリカの矯正歯科医を訪ねて

開業に先立つ4年前(1974年)、すでに矯正歯科医として開業していた医局の先

輩・与五沢文夫先生から、アメリカの学会に参加がてら各地の矯正歯科医と一緒に訪ね歩かないか、という誘いを受けました。生後3ヶ月と3歳半の子を妻に預けて約1ヵ月のアメリカ行きは、家族にはいささか酷でしたが、将来のための絶好の機会と説得して了解を得ました。当時1ドルは約250円、成田空港はまだなく、羽田から当時の慣例に従って教授以下全医局員の見送りを受けての出発でした。

矯正歯科の黄金期にあったアメリカでは、矯正治療の質やレベルの違いをまざまざと見せつけられ、医院のシステムやその規模にも圧倒、招待された矯正医達の邸宅やその暮らしぶりに思わずタメ息をついたものでした。この旅行の体験が、のちの開業を決意させる後押しになったのは確かです。与五沢先生が2年間の修業生活を送った、ワシントンDCの矯正家ヒトスエヒロ先生の診療室の写真は今改めて見ると、ひるま矯正歯科の診療室は至るところで影響、というより真似していることがよく分かります。

開業は立川で

開業の地を立川にした理由はほとんど偶

然のようなものでした。自宅は東和市中にあり大学へは西武線を利用していましたので、通勤のみならず買物も新宿まで出ていたこともあって、立川は距離的に近くても遠い未知の街でした。12月のある日、中央線沿線での飲み会があり、フツと立川廻りで帰る気になつて降り立ったのが、立川への第一歩でした。当初は別の地での開業を考えていたのですが、その時の直感で立川での開業が決まったといっても過言ではありません。ちょうどその年(1977年)立川基地が米軍から返還され、立川が軍都から商業都市に生まれ変わる変わり目だったのも今思えば幸運なめぐり合わせでした。

物がなかったもので、診療室の窓を開けると立川の駅舎が見え、駅に出入りする人々の姿を見ることができたものです。やがて更地にはビルが建ち、立川駅は駅ビルのある大きな駅に変わりました。基地跡地には巨大なビル群が建ち並び、立川は近代都市へと大きく変貌を遂げていきます。

エッジワイズ法を選ぶ

1960年代後半、日本は近代矯正歯科臨床の黎明期にあり、矯正歯科の先進国であるアメリカから、引つ切りなしに矯正医や矯正科の教授が講演や講習会のために来日し、そのどれも受講者で満員になる盛況でした。この時期特筆されるのは、日本歯科大

学の榎教授が持ち帰ったベッグ法と、日本矯正歯科学会がスエヒロ先生を講師として全国で講習を行なったエッジワイズ法の二つのテクニックが、現在の矯正歯科臨床の礎になったことです。母校・日本歯科大学の矯正科では、すべての患者をベッグ法で矯正していましたが、与五沢文夫先生が帰国後に個人的に講習会を開き、エッジワイズ法の普及と育成に努めたことから、日本の矯正界はベッグ派とエッジワイズ派で二分する形になりました。こうした時代背景の中、与五沢先生のエッジワイズ講習会を受講したことを機会に、開業ではベッグ法を捨てエッジワイズ法をとることに決めました。それは重大な決断でしたが、振り返れば極めて適切な選択でした。



ワシントンDCにあるスエヒロ先生の診療室風景(1974年)。ドクターはいつもYシャツ(ネクタイ)姿で診療していました。



スエヒロ先生の所のスタッフ。いまでもなくノーグローブ、ノーマスク。



1980年頃の基地跡地をビル屋上から撮影。官舎には自衛隊が駐留、はるか遠くに造園中の昭和記念公園とさらに先に横田基地の建物が見えます。



2008年10月、同じ場所から同じ方向を撮影。基地跡地の再開発事業(ファーレ立川)により同じ場所とはとても思えない変貌ぶりです。